

小学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

平成13年度

教育研究員名簿

地区	学校名	氏名
新宿	江戸川小	小澤 恵智子
文京	千駄木小	◎橋谷田 有俊
目黒	鳥森小	福江 由紀子
中野	新山小	志村 律子
練馬	練馬東小	小山 昌通
江東	第七砂町小	代田 理恵
葛飾	亀青小	大山 祐子
青梅	第四小	福富 智
日野	日野第七小	須藤 正紹
西東京	保谷小	田中 裕子
三宅村	三宅小	○中村 泰之
青ヶ島	青ヶ島小	大橋 明城

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 伊津寿美

目 次

I 研究主題

1 主題設定の理由	1
2 サブテーマについて	2
3 研究の構想	3

II 研究の内容

1 基本的な考え方	
(1) 育てたい力について	4
(2) 育てたい思いについて	7
2 育てたい5つの力に関する事例	
・事例1「@おどろけ！ホームページ」(第6学年)	8
・事例2「四小を見つめ直そう」(第5学年)	12
3 育てたい力と育てたい思いを明確にした指導計画	
・資料1「福祉」	16
・資料2「国際理解」	18

III 研究の成果と課題

1 研究の成果	20
2 今後の課題	21

I 研究主題

「自ら課題を見つけ、追究し、自己を見つめる総合的な学習の時間」

—— 育てたい力と育てたい思いを明確にして ——

1 主題設定の理由

昨年度の研究員は、総合的な学習の時間において目指す児童像を「かかわりを大切にする子」「創造的に取り組む子」の2点に絞り、研究を進めた。その結果、学習過程の中で児童が意欲になれる場を設定し、課題解決に向けて個に応じた指導を工夫すれば、目指す児童像に近づくことが明らかになった。一方、課題として総合的な学習の時間のねらいを明確にした単元の構成や指導者の様々な支援の工夫を図る必要性があげられた。

今年度は、研究主題を設定するにあたり、まず総合的な学習の時間で育てたい力を明確にして、主題を考えていく必要があると考えた。新学習指導要領の移行措置2年目に入り、総合的な学習の時間の実践が積み重ねられているが、各校の取り組みや実態は様々である。その中で、「どのような活動を行うか」ということばかりに目が向けられ、「活動のねらい」や「各学年でどのような力を育てるか」が明確でないことが、研究を進めるなかで問題としてあげられた。

そこでまず、共通理解を図るために、児童の実態と具体的に育てたい力を検討した。その結果、次のように学習活動の3つの段階での研究の視点をまとめた。

【課題設定の段階】

学習を進めていく時、まず指導が難しいのは課題をもつ場面である。研究実践を重ねる中で教師側の支援がない場合、「価値ある課題」「追究し続けることができる課題」を児童が自らが見出すのは難しかった。具体的には、

- ・ 自ら課題を見つけるという活動では、「自ら」をどのように捉えればよいのか。
- ・ 学年の発達段階に応じた課題のもたせ方には、どのようなものが考えられるのか。
- ・ 意欲的に取り組むことができる課題とはどんなものなのか。
- ・ 児童が課題設定を行うにあたっての効果的な支援とはどのようなものなのか。

などの課題があげられた。そこで、「自ら課題を見つける」ことを第1の視点とした。

【課題追究の段階】

課題解決のために追究が始まると、学習活動の個人差が大きくなっていく。内容が深められない児童や意欲を失い最後まで取り組めずに終わらせてしまう児童が見られるようになっていく。具体的には、

- ・ 最後まで意欲的に追究していくための方法や支援はどのようなものがあるのか。
- ・ 資料、人材、時間の確保をどのように行えばよいのか。
- ・ 活動の見通しをもつ力や情報処理能力などをどのように育てればよいのか。
- ・ 人とかかわる活動を効果的に行うためには、どのようにしたらよいのか。

などが課題としてあげられた。そこで、「追究」を第2の視点として考えた。

【自己の生き方を考える段階】

小学校段階において、自己の生き方を考えることはまだ困難な児童が多い。具体的には、

- ・小学校において、「自己の生き方を考える」とはどのようなことなのか。
- ・自己の生き方を考えられる児童にするために、発達段階に応じてどのような体験や学習が大切なのか。

などが課題としてあげられた。また、「自己の生き方を考える」ことができるようにするためには、まず「自己を見つめること」が大切なのではないかと考え、第3の視点として考えた。

以上のことから、研究主題を「自ら課題を見つけ、追究し、自己を見つめる総合的な学習の時間」とし、実践を中心に研究を進めていくこととした。

2 研究の基本的な考え方について

「自ら課題を見つけ、追究し、自己を見つめる総合的な学習の時間」を実践していく上で、具体的にどのような力を身に付けさせることが大切かを明らかにし、その手だてを探っていく必要があるのではないかと考えた。また、指導計画を作成していく上で、学習内容ばかりに注目せず、育てたい児童の姿を明確にもつことが大切なのではないかと考えた。

このような理由からサブテーマを「育てたい力と育てたい思い明確にして」と設定した。具体的な進め方は以下の通りである。

(1) 「育てたい力」を明らかにする

育てたい力は「課題設定の力」「追究する力」「伝え合う力」「かかわる力」「振り返る力」の5つの観点から、考えていくこととした。

(2) 「育てたい思い」を明らかにする

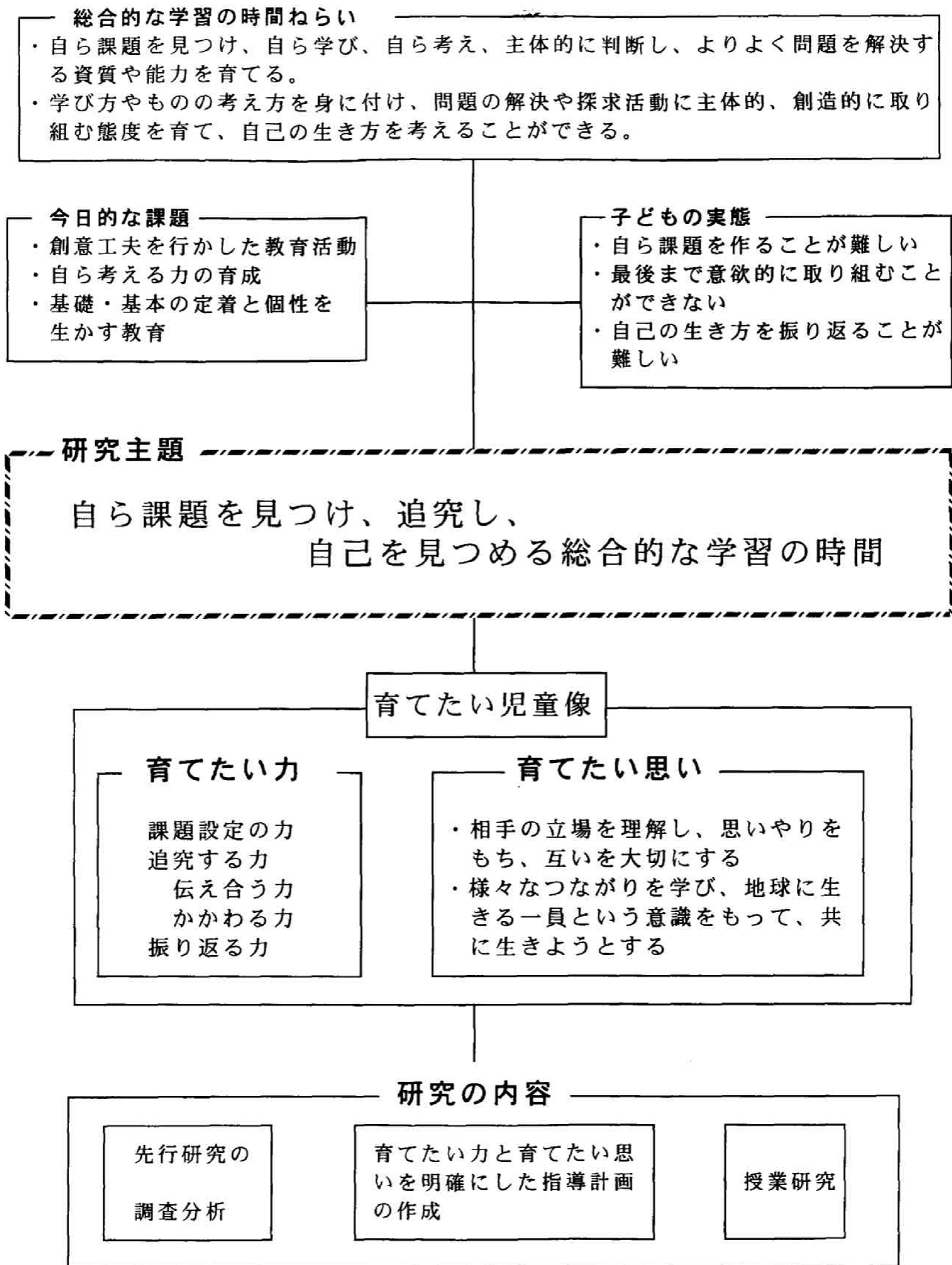
育てたい思いは各校の実態や教師の願いにより異なるが、本研究では次のように

- ・相手の立場を理解し思いやりをもち、互いを大切に作る心や人のために役立つことに喜びを感じる心の育成。
- ・様々なつながりを学び、地球に生きる一員という意識をもって共に生きようとする心の育成。

の2点を本研究における育てたい思いとし、4年間を見通した系統性のある実践例を研究していくこととした。

このような視点から研究を進め、研究主題に迫っていきたいと考えた。

<研究の構想>



II 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 育てたい力について

本研究では、総合的な学習の時間における児童の活動について、次のような課題が見られると話し合った。

中学年児童の実態

- ・活動は、意欲的である。
- ・課題をもつことに慣れていない。
- ・友達と同じ課題を作ってしまう。
- ・「なぜだろう」「不思議だ」という意識はもつが、課題に発展していかない。
- ・資料を活用する経験が少ない。

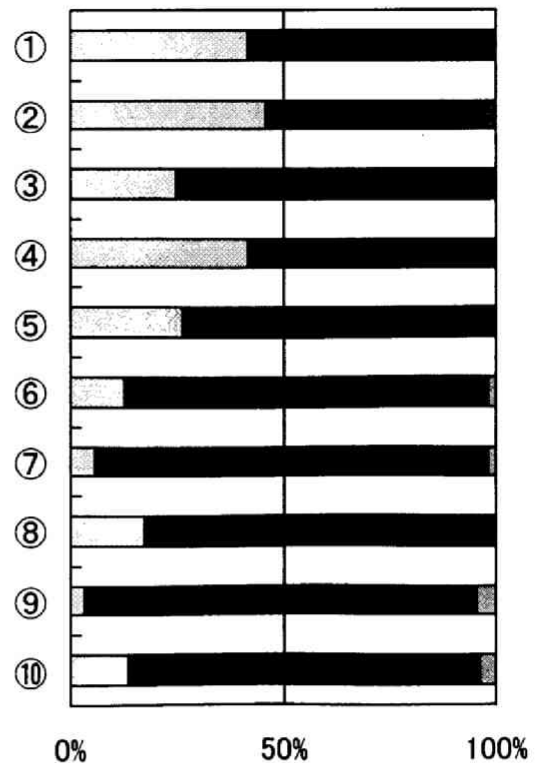
高学年児童の実態

- ・抽象的な課題を作っている。
- ・相手に分かりやすく、興味を引きつけるような発表ができない。
- ・自分の考えを深めることができない。

また、平成 13 年度の東京都教職員センターの調査で総合的な学習の時間の実施状況調査の中で、本研究にかかわる項目について参考とした。

ア 『「総合的な学習の時間で児童に身につけさせたい力としてどの程度重点をおいたか。」』

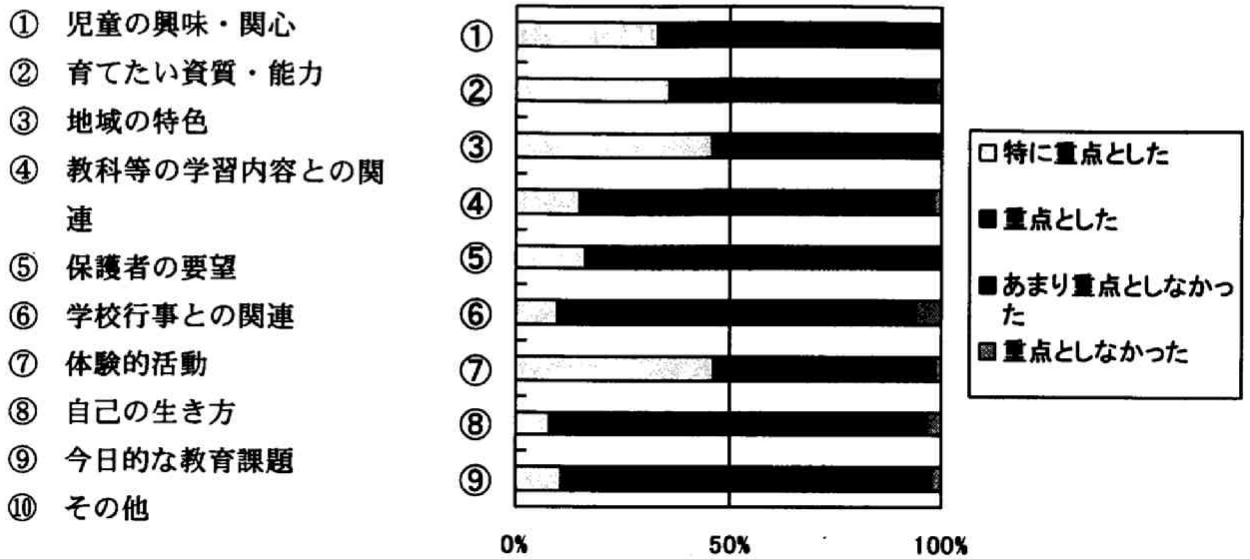
- ① 自ら課題を見付ける力を育てる
- ② 課題解決や探究活動に主体的に取り組む力を育てる
- ③ 情報の集め方・調べ方やまとめ方等の学び方を身に付ける
- ④ 友人やまわりの人と協力して取り組む社会性や協調性を育てる
- ⑤ コミュニケーション能力を育てる
- ⑥ 各教科等で身に付けた知識や技能を総合的に関連付ける力を育てる
- ⑦ 新たな考えや、自分ならではの方法を創り出す力を育てる
- ⑧ 自分のよさに気づき、生き方について考える力を育てる
- ⑨ 社会の変化に主体的に対応できる力を育てる体験を通して、働くことや社会の一員であることの大切さに気付く
- ⑩ その他



□特に重点とした ■重点とした
 ■あまり重点としなかった □重点としなかった

☆この回答の中で、①は、課題設定の力 ②③⑥⑦は追究する力 ④⑨はかかわる力、⑤は伝え合う力 ⑧⑩は振り返る力に対応する。特に①から⑤までを重点であると答えた学級が、80%を越えている。

イ 『「総合的な学習の時間」の学習を決めるにあたり、どの程度重点をおいたか。』



☆ 育てたい資質・能力に重点をおいている学校は、88.6%である。アとイの調査から各学校では、児童の育てたい力を明確にして取り組む姿が見られる。

ウ 『「総合的な学習の時間」における指導に関連して課題となっていることを自由に書く。』

課題として記述していることは、以下のことがある。

- ・年間指導計画
- ・指導体制
- ・教師の力量・意識改革
- ・評価
- ・指導・援助

☆ 代表的な記述例の中には「ねらいと生きる力を明確にし、3～6年を見通した学校としての指導計画を作成する必要がある。」と記されている。本研究でも系統性をもたせた学習活動の計画をたてる必要性があると考えた。

以上のことから、育てたい5つの力である「課題設定の力」「追究する力」「伝え合う力」「かかわる力」「振り返る力」を中心として研究を進めることが適切であると考えた。

<育てたい力>

育てたい力	中 学 年	高 学 年	
課題設定の力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を明確にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・価値ある課題を見つけることができる。 	
追究する力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の手段を広げいろいろな情報を集めることができる。 ・見通しをもって活動の計画を立てることができる。 ・様々なかかわりの中で、自分の考えとの共通点や相違点に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の手段を選択し、得た情報を効果的に活用できる。 ・計画に沿って活動し、よりよい追究の方法を取り入れることができる。 ・様々なかかわりの中で自分の考えを深めることができる。 	
	伝え合う力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことを効果的に表現することができる。 ・相手の伝えたい大事なことを考えながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを理解し、自分の考えを相手に伝えることができる。 ・相手の話や意図を理解し、自分の考えを深めることができる。
	かかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで人や事象に関心をもち、かかわろうとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や対象との関係を考えて進んでかかわろうとすることができる。
振り返る力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさに気づき自信をもつことができる。 ・自分なりの考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動を振り返り、次の活動に生かすことができる。 ・自分の生き方について考えることができる。 	

(2)「育てたい思い」の設定理由

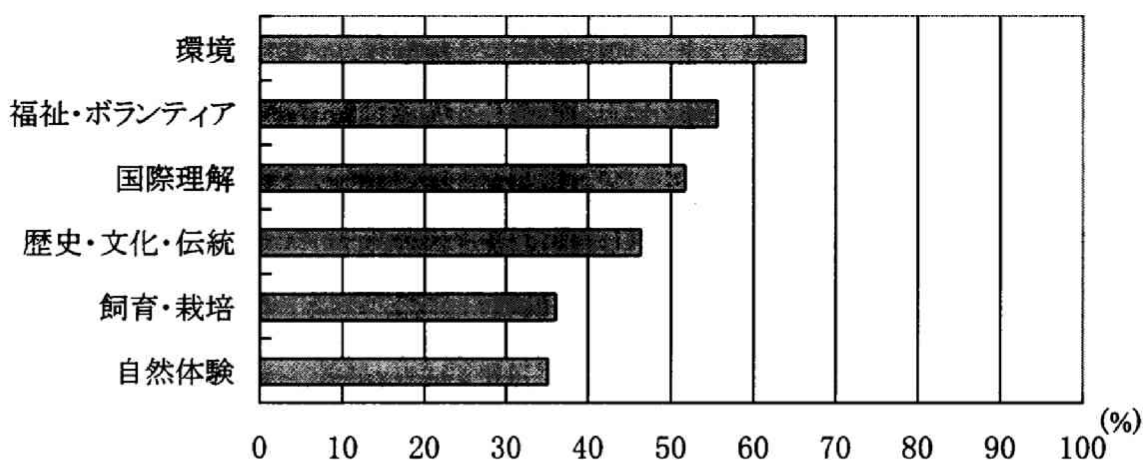
小学校の新しい学習指導要領解説「総則編」の中では、総合的な学習の時間における指導について次のように述べている。

情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身に付け問題解決に向けての主体的、創造的な態度を育成すること、自分の考えや意見をもったり、自分のよさに気づき、自分に自信をもったりするなどして自己の生き方について考えることができるようにすることをねらいとしている。

この中で、特に自己の生き方について考えることができるようにすることをねらっているのは、総合的な学習の時間の特色であろう。

そこで、本研究では、自己の生き方を見つめさせ考えさせていくには、短期間ではなく長い時間をかけて児童を育てていくことが大切であると考えた。さらに、教師は、「生きる力」の育成に必要な力の中でどのような点がまだ不十分であるのか、どの部分を大切に伸ばしていきたいのかを十分に明らかにするとともに、児童にこのように育てて欲しいという思いをもって計画をたてていくことが大切であると考えた。

平成12年度東京都教育委員会指導部初等教育指導課教育課程の編成状況資料では、各学校の取り組む予定の内容として福祉・ボランティア、国際理解が上位を占めていた。そこで、本研究でもその2つの内容を取り上げて育てたい思いを明確にしようと考えた。



本研究では、育てたい力をそれぞれ次のようにとらえ4年間の系統性をもたせて研究を進めることとした。

福祉・ボランティア：相手の立場を理解し思いやりをもち、互いを大切にする心や人のために役立つことに喜びを感じる心の育成

国際理解：様々なつながりを学び、地球に生きる一員という意識をもって共に生きようとする心の育成

2 育てたい5つの力に関する事例

事例1 第6学年

(1) 単元名 「@おどろけ！ホームページ」

STAGE 1 「ホームページ全体構想大計画」

STAGE 2 「サイト作成プロジェクト」

STAGE 3 「ぼくたちの新たな学び」

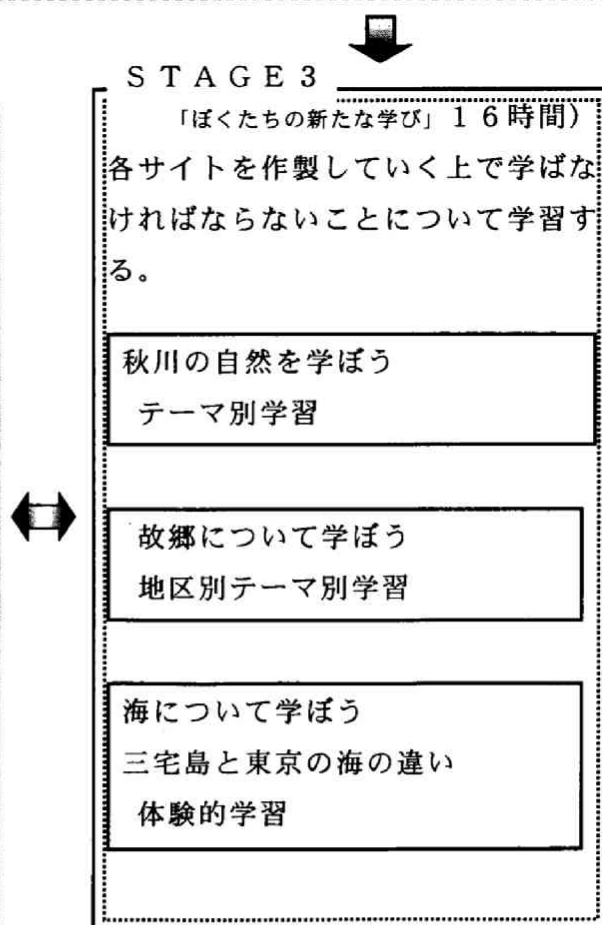
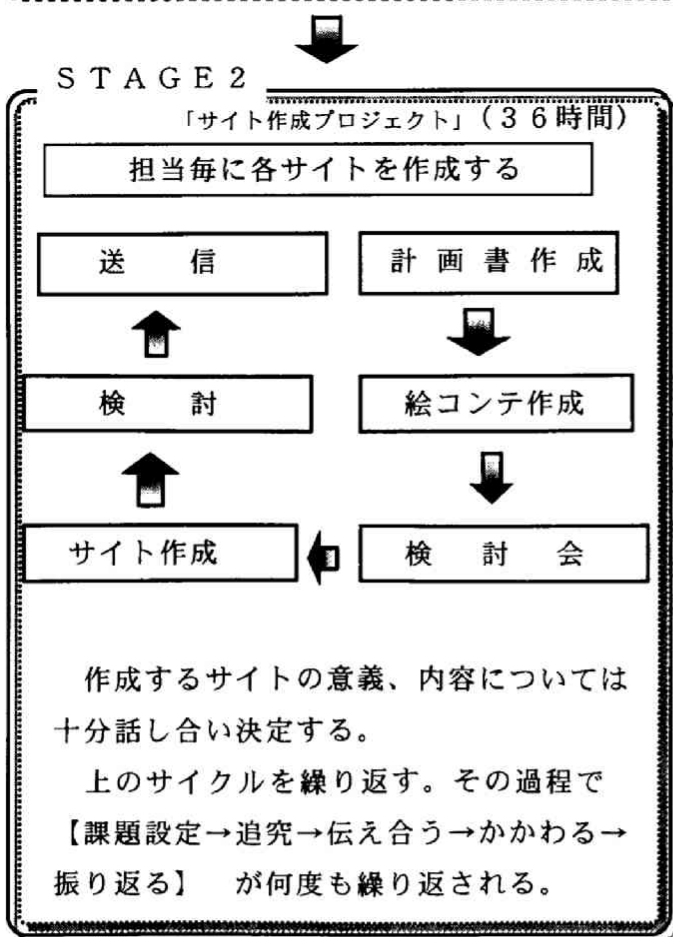
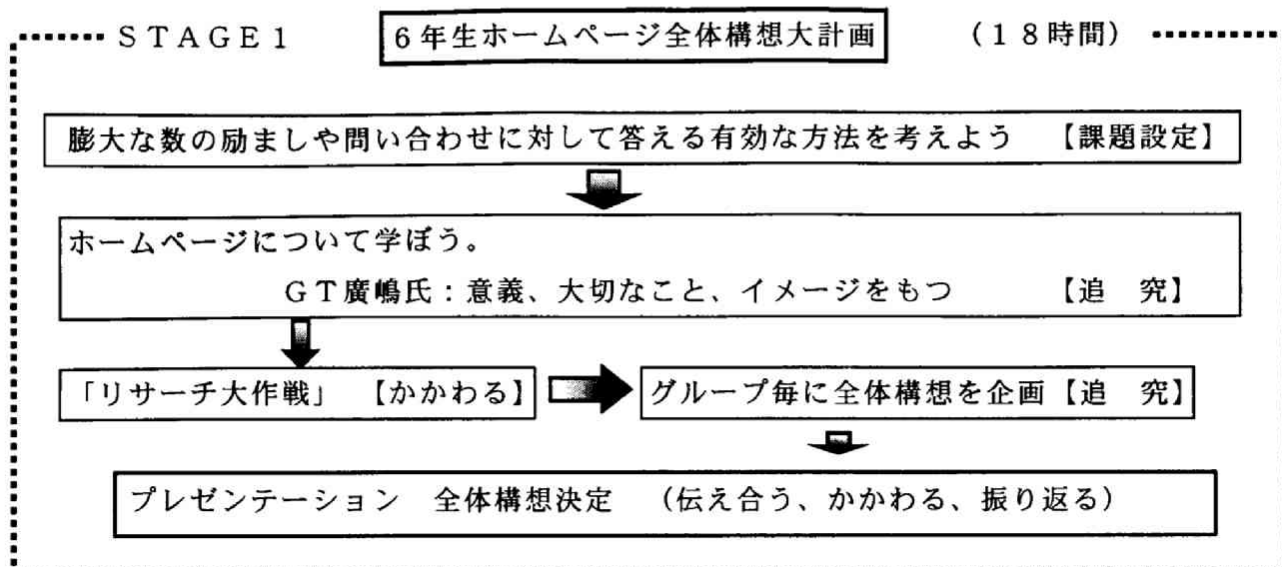
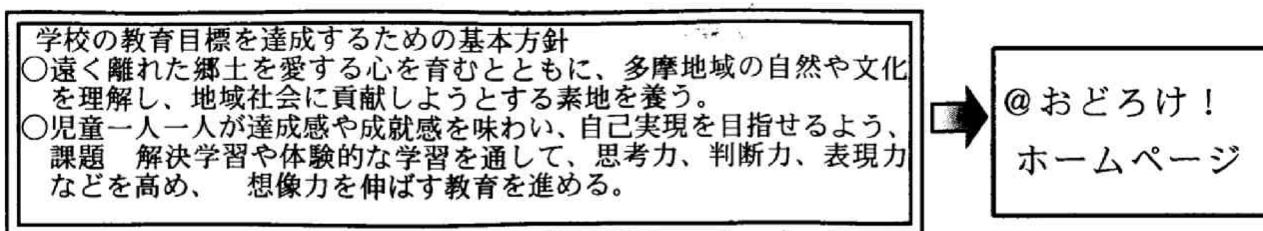
(2) 単元のねらい

- 自分たちの立場を自分たちなりに理解し、適切な課題を設定し、価値のある情報をホームページで発信する。
- ホームページ作成過程における課題を追究しながら学びを深め、インターネットを通しての情報のやり取りやコミュニケーションについて学び、人とのつながりが大切であることに気付く。
- 避難地である秋川から情報を発信しようとすることにより、故郷としての三宅島をしっかりと見つめ自分の生き方を考える。

(3) 単元における5つの力の育成と学習活動の関連について

5つの力	主な学習活動	支援の手だて
課題を設定する力	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な伝達手段の検討 ・ホームページの構想を練る ・各サイト作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの設定、伝達手段の例示 適切な伝達方法について話し合う。 ・GT（ゲストティーチャー）のはたらきかけ GTからホームページを作成する上で大切なものについて話をしてもらいイメージをはっきりさせる。 ・話し合いの設定 何を何のために伝えるのかを話し合う場面を設ける。
追究する力	<ul style="list-style-type: none"> ・全体構想のプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・GTのはたらきかけ 伝えたいことが的確に伝わるかをGTと共に考える。
伝え合う力	<ul style="list-style-type: none"> ・完成ページの発表 ・文化祭での発表 ・故郷について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の検討 自分たちの意図が伝わっているか立場を変えて討論する。 ・内容吟味の視点 自分たちの経験や故郷への思いから項目立てをする。
かかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になっている人へのメッセージを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの設定 具体的な人、内容について整理しメッセージを考える。
振り返る力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが伝えたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことの確認 問い合わせの内容の見直し。メッセージは確実に伝わるかについて話し合う。

(4) 指導計画



@おどろけ！ホームページ



天神島に行っ
て秋の海を知
れてよかった
です。寒かっ
たけれどドラ
ゲメヤクイ
ろいろな海
の生き物

に出会って本当に感動しました。同じ海でも環境がちがうと住んでいる生き物がちがってくるのがわかりました。でもゴミが捨てられていたのが少し腹立たしく思えました。「海をきれいにしよう」という看板を読まなかったのかな。やっぱり海はすてきなあとだと思います。太一（国語「海のいのち」主人公）の気持ちがわかりました。これからのきれいな海で生き続けてほしいです。

（写真は本人が海の底に沈んでいる空き缶を拾ってきたところ）

保護者主催「海の学校」の開催。
三宅島の自然を別の視点からとらえるために、
神奈川県真鶴町（夏）と横須賀市天神島（秋）
で海中観察（シュノーケリング）、森の観察
（冬）を行う。

多彩なゲストティーチャー

- ・ 廣島和彦氏（ホームページ作製会社勤務）
- ・ ジャックモイヤー氏（海洋学者）
- ・ 海野義明氏（ネイチャーガイド）
- ・ 長谷川氏（三宅島元気農場）など

避難してから今に至るまでのいろいろな方からの励まし

全国の人に三宅のことを知ってもらいたいのでこれからも楽しみながら早くホームページを作っていきます

自分たちが伝えたいことや伝えたい思い

ぼくにとって初めてのホームページ作りです。三宅や秋川のこと、最新ニュースなどで、僕たちのことを目一杯伝えようとしています。

今は秋川のことを中心だけど僕たちの故郷「三宅」のことをこれから伝えていきたいです。まだできていないページよりできていないページの方が多い。だからもっとスピードを速くしつつ、内容を深く濃くして見てもらいたいと思います。

今、担当しているのが海のページ。三宅の海と真鶴と天神島のことも載せる。このページで三宅の魅力のひとつ、海のことを知ってもらいたい。ホームページ作りこれからもがんばるぞ。

最新ニュース

ここでの行事をみんなに伝えたい。秋川での生活はとっても楽しいということ。

三宅島の海と東京の海とのちがい

三宅といえば海と山。素晴らしい海の魅力を知ってもらいたい。

秋川での生活

寮にいても楽しいことはいっぱいあるしい思っています！

三宅島と秋川の自然

各サイト作成へ

ホームページ全体構想プレゼンテーション

グループごとに企画を練る GT廣島和彦氏

たくさんの励ましや問い合わせに答え、自分たちの思いを発信していくのに適切な方法を知る。「ホームページとは何か」

活動構成図



避難という現実
 新しい場所での生活
 三宅島を思う気持ち

考察

全ての学習は有機的につながり、それは、一つの木が時間をかけたく遅く成長していく様子に例えられる。
 木の成長に必要な要素は太陽・空気・水・大地。
 大地は生活そのものとそこに生じる思い。空気は学習環境（人とかかわりを含む）。水は様々な出来事。太陽は家族をはじめとする多くの人の愛と考えられる。
 ホームページを作製していく過程で新たな課題が発生し、他教科との関連の中で解決し学びを深めていく。学びは学校の中に留まらず、保護者主催行事としての自然体験学習にも結びつき発展する。総合的な学習の時間の場合、その学びの形は学校の枠におさまらず、児童の日常にまで浸透することが望ましい。
 それは生涯学習につながるからである。5つの力は学習の全てに遍在している。ひとつの学習のなかに螺旋構造で存在しているといっている。「課題を見つけ、追究し、伝え合い、かかわり、振り返る」この過程が繰り返され学習が深まっていく。

事例2（第5学年）

（1） 単元名

「四小を見つめ直そう。」

（2） 単元のねらい

○昔の四小の様子あるいは現在の四小について関心を持ち、調べる課題を設定できる。

○情報の収集の仕方・マナー・まとめ方を学び課題を主体的に追究する。

○自分たちと同じように四小で学んだ多くの先輩の存在に気づき、四小をよりよい学校にしていこうという意欲を喚起する。



（3） 単元の設定理由

本校は昨年創立50年を迎えた。今年度は50周年記念の様々な活動が予定されている。航空記念写真の撮影など既に行われたものもある。この機会に自校を見つめ直すことに興味・関心を示す児童もいるだろう。

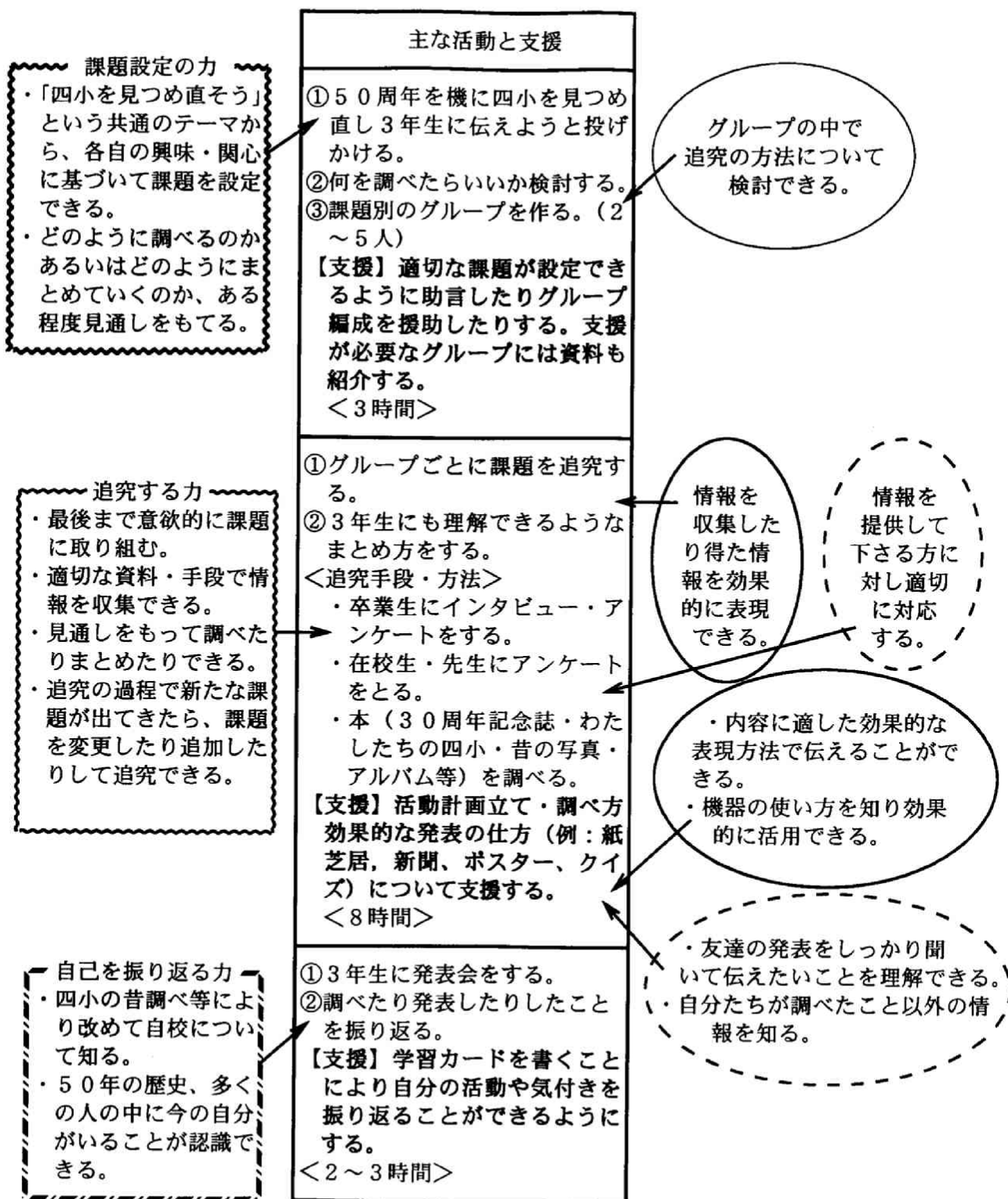
現在の四小を改めて見つめ直したり、50年の歩みを調べたりすることは多くの児童の知的好奇心を喚起するだろう。そしてこの活動の中で児童は自ら課題を見つけ追究していく資質や能力を培うことができると考えた。さらに単元の最後に3年生に発表会を開くことにした。発表会があれば調べたことをまとめなければならない。相手が3年生であればわかりやすい言葉で、工夫して伝えなければならない。こうしたまとめの活動が追究をより確かなものにすると思った。



50年の歴史を調べれば今と違う学校生活があったことにも気付くであろう。さらに、四小は自分たちだけの学校ではなく多くの先輩が学んで巣立っていった学校でもあることにも気付かせたい。保護者や地域の方が様々な協力をして下さったことにも気付いてほしい。

言い方を変えるならば、50年の歴史の多くの「四小っ子」の中に今の自分がいるという認識をもたせたい。

(4) 学習活動と「育てたい5つの力」



【課題設定】

【課題】

五十周年を機に

四小を見つめ直そう

教師のはたらきかけ

『四小は今年で50周年だけど、今まで不思議だな？ 知りたいなと思っていたことがありますか？』



児童の反応

「四小ができる前ここは病院だったって本当？」
「校歌は誰が作ったのか知りたい。」
「四小ができた頃の様子はどうだったのだろう？」

課題の追加

課題の選択・決定

課題グループ	調べる活動
<ul style="list-style-type: none"> 校章 校歌や運動会の歌 施設 	<ul style="list-style-type: none"> 校長先生に尋ねた。 音楽の先生に尋ねた。運動会の歌は、前の音楽の先生に尋ねるようにと言われた。 古くからいる先生に尋ねた。(が、わからなかった。)
<ul style="list-style-type: none"> 卒業生にアンケート 昔の給食調べ 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの作成、実施。「四小の良いところはどこですか」「今の四小の児童にメッセージがあったらお願いします」等々。 給食センター・市立図書館から資料を取り寄せた。
<ul style="list-style-type: none"> 四小ができた頃 謎の彫刻 新幹線が四小に来た？ 	<ul style="list-style-type: none"> 開校当時に在籍していた方に話をうかがった。 彫刻を再度見直した。寄贈者に話をうかがった。 古くからいた先生に尋ねた。鉄道公園にも行って係りの人に尋ねてきた。

【自己を見つめる】

四小は古いんだなあと思った。卒業生が8000人近くもいてすごい。みんな私達の先輩なんだと思った。

資料をもらうために給食センターに電話をした。ドキッとした。ぼくはガチガチになった。
大人と電話で話して冷や汗ダラダラになった。とても疲れたけどいい経験になった。


の 追 究 】

支援	わかったこと
<ul style="list-style-type: none"> 先生方に尋ねる時や電話で尋ねる時のマナー 30周年記念誌・古い写真やアルバムの紹介 思うように進まないグループの追究方法等示唆 	<ul style="list-style-type: none"> 校章は青梅という地名にちなんで梅の花をデザインした。梅は百花に先立って咲き、香りも…… 校歌は西条八十作詞、渡辺浦人作曲。運動会の歌は当時の音楽の前田美子先生と児童会の子どもたちと一緒に作った。 昭和32年、体育館の建設のために10円貯金を始めた。1日も早く体育館ができるように、という願いの表れ…。
<ul style="list-style-type: none"> アンケート項目の追加 アンケートの処理の仕方 アンケート結果のまとめ インターネットでの調べ方 	<ul style="list-style-type: none"> 四小の良いところ：「自然に恵まれていて伸び伸びとしている。」「縦割り班活動が、兄弟が少なくなってしまった現在では、人間関係を学ぶのにとても良いと思います。」等々 今の児童へのメッセージ：「勉強や友達とのことでいろいろと困ったり悩んだりすることもあると思います。でも…。」 昔はく鯨の竜田揚げ>を食べたり<脱脂粉乳>を飲んだりしていた。<脱脂粉乳>はまずくて…。
<ul style="list-style-type: none"> 質問項目の精選・追加やまとめ方の助言 まとめる時に有効なデジタルカメラの使い方 グループで放課後に調べに出かける時の注意事項 	<ul style="list-style-type: none"> 一小から椅子や本を持ってみんなで蟻の行列のように歩いてきた。校庭はまだでこぼこだった…。 野鳥を大切にしようとして愛鳥の学校作りをした。その記念として鳥の彫刻を作ってもらうことになりました…。 新幹線が四小付近に着いたのは夜の12時を過ぎていました。根ヶ布方面に向いてた車体を鉄道公園の方に向けるために、正門の近くのブロック塀を壊しました…。

グ・イ・ス
体育館パーティ

Q1
昭和32年今から約44年前に体育館を建てるための何を始めたのでしょうか？

1. 小道具を用意した。
2. 十円貯金
3. 協力してくれる人を集めた。




ちやうこくはいつ
野鳥を大切にしようとして愛鳥の学校作りをしました。そのときは記念として鳥にちなんでちやうこくをくっつけたんですよ。



調べたことを3年生に伝えよう！

3 育てたい力と育てたい思いに明確にした指導計画

(資料1) 「福祉」

育てたい思い		相手の立場を理解し、思いやりをもち、人のために役立つことに、喜びを感じ	
		具体的な姿	
単元名		3年生 「障害について知ろう、考えよう」 (20時間)	4年生 「私の街のバリアフリー」 (25時間)
	主なる活動	<ul style="list-style-type: none"> ○町探検で見学した養護学校のことを思い出し、思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・養護学校のVTRを見る。 ○障害のある人のことを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスク体験 ・障害のある方と交流。 ・ボランティアの方の話を聞く。 ○自分の調べたいことを見つける。 <ul style="list-style-type: none"> ・関係のある本を読む。 ・いろいろな調べる方法を知る。 ○ブックトークを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・視点を決め、グループで本を集め、紹介しあう。 ○学習した後の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「バリアフリー」とは何かを知り、身近にある様々な「バリア」について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・障害に関する絵本を読み、話し合う。 ○障害に関しての体験活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・点字の本を読む ・手話 ・車椅子体験 ・障害のある方との交流 ○追究したいことを見つけ、調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方に役立つような課題になるようにする。 ・自分なりに見通しをもって計画を立てる。 ○発表会を開く。 <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に学んで得たことが伝わるように発表する。 ・友達の発表のよいところを見付ける。 ○活動を振り返り、自分の考えをまとめる。
育てたい力	①	・体験を通して障害について調べたいことを明確にもつことができる。	・体験活動や自分の生活を振り返ったり、友達と意見を交換したりしながら、課題を明確にもつことができる。
	②	・先生や周囲の人から話を聞いたり、いくつかの資料の中から選んだりして、必要な情報を得ることができる。 ・情報を得るための様々な方法を知る。	・調べる順序、方法を見つけ、計画を立てることができる。
	③	・ブックトークなどの活動を通して、自分が伝えたいことをはっきりさせて表現することができる。 ・相手が伝えたいことの大事なところがわかる。	・学んで得たことや考えが伝わるように話す相手を意識して、表現することができる。 ・自分の考えとの共通点や相違点がわかる。
	④	・障害のある人や周囲の人々、事象に進んでかかわろうとすることができる。	・障害のある人や周囲の人々、事象に進んでかかわろうとすることができる。
	⑤	・障害のある人に対しての自分の考えをもつことができる。 ・自分の活動を思い出し、よかったところに気付くことができる。	・障害のある人のためにできることを考えることができる。 ・自分や友達の活動を思い出し、よかったところに気付くことができる。

①…課題設定の力 ②…追究する力 ③…伝え

互いを大切にする。	
○生まれてから今まで成長していることに喜びを感じ、命の重さを実感し、自分も周りの人も大切にしようとする。	○地域にある特別養護老人ホームの人々との交流を通して、相手の立場や思いを理解し、共に生きていこうとする。
5年生 「かがやけ！ぼくの命、わたしの命」 (27時間)	6年生 「高齢者の方と交流しよう」 (27時間)
○妊婦さんの話を聞く。 ・日常生活で大変なことや誕生する子への思いや願いを聞く。 ○新生児の人形を抱いたり、生後5ヶ月の赤ちゃんとふれあったりする。 ○命の誕生について追究したいことを見つけ、調べる。 ・親、助産婦、保育士、幼稚園教諭に話を聞く。 ○保育士の手伝いの計画を立て、保育園で園児と交流する。 ・保育士の方にどのような気持ちで園児と接しているのか、話を聞く。 ○保護者、保育園の先生を招いて発表会を行う。 ○活動を通して学んだこと明らかにし、これから調べていきたいことを見つける。	○身近な高齢者から話を聞く。 ・高齢者が子どもの頃の話や、これまでの経験、生き方などの話を聞く。 ○高齢者の体験グッズを利用し、高齢者の体について考える。 ・自分の体とお年寄りの体との違うことに気付く。 ○特別養護老人ホームの方と交流する。 ・介助の方にどのような気持ちで高齢者と接しているのか、話を聞く。 ○追究したいことを見つける。 ・高齢者の生き方や経験の話を聞き、追究していきたいことを考える。 ○追究してきたことをまとめ、発表する。 ・高齢者の方も話を聞いてもらう。 ○活動を通して、自分が学んだことを振り返る。
・「命の誕生」について、持続性のある課題か、価値のある課題かを考えて設定することができる。 ・追究の過程で必要となる情報や考え方を自ら収集しながら、解決の見通しをもって追究することができる。	・「生きる」ことについて、持続性のある課題か、価値のある課題かを考えて設定することができる。 ・追究の過程で必要となる情報や考え方を自ら収集しながら、解決の見通しをもって追究することができる。
・命について学んで得たことを効果的に伝える手段を工夫して表現することができる。 ・相手の話や意図を理解し、自分の考えをもつことができる。	・「生きる」ことについて学んで得たことを、様々な方法から選択し、わかりやすく表現することができる。 ・相手の話や意図を理解し、自分の考えをもつことができる。
・保育士や自分の親の気持ちを理解し、園児に進んでかかわろうとすることができる。 ・家族、保育士、園児とかかわり合いながら自分が育ってきたことを振り返り、考えを深めることができる。 ・自他の命を大切にし、これからの生活に生かすことができる。	・高齢者や周りの人々の気持ちを理解し、進んでかかわろうとすることができる。 ・これまでの活動をもとに、自分の生き方を振り返り、考えを深めることができる。 ・自他の命を大切にし、これからの生活に生かすことができる。

合う力 ④…かかわる力 ⑤…振り返る力

様々なつながりを学び、地球に生きる一員			
育てたい思い	具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然や文化を理解するとともに、各地の文化や生活の様子に関心をもつ。 ○大根栽培を通して、各地の学校とメール等による交流を行い、コミュニケーションを進んで図ろうとする態度を育てる。 	
単元名	3年生 「桜島大根と練馬大根をいっしょに育てよう！」 (22時間)	4年生 「国際交流会を開こう」 (20時間)	
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○課題をつかみ、大根栽培について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・畑作り、種蒔き、インターネットとメール体験、ネチケットを学ぶ。 ○追究する。 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人に聞いたり、図書館やインターネットで調べたりする。 ○各地の小学校と大根栽培を通してメールで交流する。 ○発表会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・各地の大根の育ち方の違いや各地の生活の様子についてまとめる。 ・大根祭りを行う。 ○活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・各地の大根についての思いや願いに気付き、次の活動への意欲をもつ。 ・メールで感謝の気持ちを送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を決め、日本のことについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・行事、伝統、食べ物、地域など ○発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表を見合うことで、共感し合い、より日本について理解する。 ○外国人講師の国について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・会話の土台となるための下調べをする。 ○国際交流会を開く。 <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して交流を深める。 ・日本について調べたことを教える。 ・外国人講師の国についてより深く教わる。 ○活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・外国と日本の共通点、相違点に気付き、次年度への意欲をもつ。 ・手紙で感謝の気持ちを表す。 	
育てたい五つの力	①	<ul style="list-style-type: none"> ・これから自分が学びたいことを教師や友だちと相談し、決めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や身近な自然・地域から課題を見つけることができる。
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ方のいろいろな方法を知り、情報を集めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の計画を立て、いろいろな手段を使いながら、必要な情報を集めることができる。
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたいことをはっきりさせて、表現することができる。 ・相手の伝えたいことや伝えたい思いに共感することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して、自分の伝えたいことを効果的に表現することができる。 ・相手の伝えたいことや伝えたい思いに共感し、自分の感想を持つことができる。
	④	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対する意欲をもち、進んで身近な人や事象にかかわろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもち、進んで人や事象にかかわることができる。
	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・大根栽培についての交流を通して、自分の地域と他の地域のつながりに気付くことができる。 ・努力したこと、成長したことを喜び、活動に意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と外国の違いを認め、それぞれのよさに気づく。 ・努力したこと、成長したことを喜びや励みとし、自他を生かす活動に意欲をもつ。

①…課題設定の力 ②…追究する力 ③…伝え

という意識をもって、共に生きようとする。	
<ul style="list-style-type: none"> ○自国と比較しながら興味のある国について調べる活動を通して、世界には様々な異文化があることに気付き、これを尊重し、共に生きていこうとする態度を育てる。 ○他国を知ることと同時に、自己の生活や自国を見つめ直し、自分の関心や視野を広げようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の世界情勢を見つめるとともに、自分たちの生活を振り返り、何か世界のために援助活動ができないかどうか考えようとする。 ○援助活動の実践を通して、一地球人という意識をもち、今後の実践や活動に意欲をもちようとする。
5年生 「広い世界、すごい世界、おもしろい世界！」 (30時間)	6年生 「地球 SOS!!」 (30時間)
<ul style="list-style-type: none"> ○米についてテーマを決め、各自計画を立て調べ学習をする。 ○いろいろな米を試食する。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の米、外国の米を試食し違いに気付く。 ○世界の米料理について知り、実際に作ってみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを迎える。 ○日常生活の中で外国とのつながりを調べる。 ○興味のある国について調べ活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループを作り、活動計画を立てる。 ・各グループをその国の旅行社とし、調べる視点を明確にする。 ○中間発表をする。 ○プレゼンテーションをする。 ○活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・やり遂げた達成感を味わう。 ・学習を通して自分が学んだことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の世界情勢を知り、状況の不安定な国について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活と比較し、活動への意欲付けをする。 ○ユニセフなどの援助活動をしている団体について知るとともに、各国の状況について調べ発表し合う。 ○援助活動計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのすべきことは何か、なにができるかと話し合う。 ○地域や他学年に自分たちの考えた援助の形を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ※発展活動として一リサイクルバザー 募金活動 物品収集 等 ○活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・活動の達成感を味わう。 ・ボランティア活動の意義に気付く。
<ul style="list-style-type: none"> ・価値ある課題、追究可能な課題を設定し、調べ活動の見通しをもつことができる。 ・課題を意識しながら、必要な情報を適切な手段を用いて収集し、整理・活用することができる。 ・得た情報を活用して自分の考えをもち、新たな課題を見つけることができる。 ・適切な表現方法を用い、伝えたいことを表現することができる。 ・相手の伝えたいことや伝えたい思いを理解し、自分の考えをもつことができる。 ・課題追究のために必要な人や事象を選択し、進んでかかわろうとする。 ・自国と他国について学んだことを振り返ると同時に、互いを尊重し、共に生きていこうとする意識をもつことができる。 ・自己の成長に気づき、学んだことを生活に生かそうとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を吟味し、自分の力で価値ある課題追究可能な課題を見つけ、活動の見通しをもつことができる。 ・課題を意識しながら、必要な情報を適切な手段を用いて収集し、効果的に整理・活用することができる。 ・伝えたいことが的確に伝わるように工夫して伝えることができる。 ・相手の立場を考えながら、伝えたいことや伝えたい思いを理解し、自分の考えを深めることができる。 ・課題追究のために必要な人や事象に対し、感謝や尊敬の気持ちをもち、進んでかかわろうとする。 ・一地球人としての自覚を持ち、自分のできることを考えることができる。 ・人のために役立つ活動を通して、喜びを得るとともに、自分の成長に気付くことができる。

合う力 ④…かかわる力 ⑤…振り返る力

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究成果

(1) 研究主題にかかわって

①「自ら課題を見つける」について

- 身近な教材や共通の経験などから課題設定するよう支援することで児童だけの発想では見出しにくかった「価値ある課題」「追究可能な課題」などを捉えやすくすることができた。
- 学習過程の段階において、課題を十分吟味する時間をとることで、どんな課題が「追究可能な課題」か気付き、考えられるようになった。
- 互いの生活に身近で共通する「教材」や児童の興味・関心の高い課題を設定することで、児童は意欲を持続することができた。

②「追究する」について

- 課題設定、追究、まとめという経験を段階的に行うことによって、追究にふさわしい課題、調べる多様な方法や有効な手段、わかりやすいまとめ方、伝えることを意識するよさ、など児童の様々な気付きが見られた。
- 学習カードの利用や、中間発表会を設けることによって、相互評価や自己評価が活発に行われ、豊かな人間関係が培われてきた。さらに、自分のよさや可能性を認められることで、より意欲的な学びの姿勢につながった。
- 個々の学習課題を大切に主体的に学習を進める中で、次の学習に向けてより意欲的に学び続けようとする場面が、多く見られるようになった。
- 共通のテーマを設定し追究することで児童の興味・関心が高まり、意見交換などの活発な活動が見られた。
- 学習テーマに合ったゲストティーチャーなどの人選や、その人材と活動内容の綿密な打ち合わせを十分にすることで、学習活動を効果的に行うことができた。
- 情報機器の活用は、他地域の人との交流を可能にし、情報の収集・発信にとどまらず、互いの立場を意識し尊重するなど、心情面の育成に大いに役立った。

③「自己を見つめる」について

- 学習活動の中で意図的に自分の思いや考えを振り返る場を設けることで、児童は自分の変容を知ることができた。また、自分を見つめこれからの自分について考えることに有効だった。
- 「振り返りの時間」を設定し自分の活動を客観的に確認することで、自分と友達の違いに気付いたり、お互いを認め合ったりすることができるようになった。
- 「振り返りカード」によって児童の活動状況を把握し、個に応じた適切な援助をすることができた。

(2) サブテーマにかかわって

- 「育てたい5つの力」を教師が意識して指導計画を考えることによって、他教科で身に付けておくべき基礎・基本が明確に見えてくるようになった。
- 「育てたい5つの力」を考えることは、児童に育てたい力を具体的に見取っていく手がかかりとなり、指導計画を立てやすくなった。
- 国際理解や福祉の領域を取り上げ、系統的な指導計画（3～6年）を具体化できたことは、発達段階を追った「育てたい力」を明確にするという点で効果的であった。
- 「育てたい力」や「育てたい思い」を明確にすることで、教師が単元全体の見通しをもつことができた。またそのことによって、児童が主体的に活動にかかわることができるようになってきた。

2 今後の課題

(1) 研究主題について

- ①児童一人一人の興味・関心に応じた学習過程や学習形態、学習時間の工夫がさらに、必要である。例えば、学年を越えて継続して行う長期の学習過程、異学年理解を目的とした合同の学習形態、短期に集中して行う必要がある単元を設定した場合の学習時間運用の工夫などがあげられる。
- ②児童への支援の在り方と、よさを伸ばす評価の在り方について研究していくことが急務である。例えば、児童の課題に合わせた適切な支援の在り方や、児童の学習に生きる評価の方法が考えられる。評価には単元のねらいにあった学習カードの種類や評価項目の検討、多くの目で児童を見取るための学校全体の指導体制づくりがあげられる。
- ③児童の追究活動の充実を図るためには、教師側の情報収集の在り方やネットワーク活用の工夫が必要である。
- ④地域の特色に関連した素材を開発し教材化する際には、地域をよく知り地域の理解と協力を得るための配慮をするとともに、ねらい達成のための打ち合わせを十分行う必要がある。また、地域内の保育園・幼稚園・中学校や、そのほかの様々な施設などと、常に協力体制をとれるような連携が必要である。

(2) サブテーマについて

- ①「育てたい力」を付けたり「育てたい思い」を育んだりするためには、長期的で系統性のある指導計画が必要である。
- ②「育てたい思い」をさらに育んでいくために、学級の実態に応じて意図的に活動場面を設定し、課題をもたせていくことも必要である。
- ③「総合的な学習の時間」と各教科、道徳、特別活動のねらいを含めた関連性のある指導計画を年間を通して学校全体として位置付けていく必要がある。